

2009年10月4日

出張報告書

京都FD開発推進センター

深野 政之

日程：2009年9月19日（土）・20日（日）

行事名：初年次教育学会 第2回大会

出張先：関西国際大学尼崎キャンパス（兵庫県尼崎市）

参加者：深野

1. シンポジウム「高大接続からみた入学前教育」

文部科学省の先崎卓歩氏、九段中等教育学校長の高木克氏、関西国際大学長の濱名篤氏の3名による報告の後、質疑と討論が行われた。

先崎氏からは、学校教育法における各学校種の教育目的から説き起こし、全入時代の高等教育について、大学進学率の上昇、大学設置基準の大綱化、中教審の議論などの基礎的な紹介が行われた。

高木克氏からは、「新しい学力観」から「ゆとりある教育」を経て現在の学習指導要領にいたる学力観と、高校生の意識の変化について紹介があり、高校生全体の学力低下の実態は「ある」とした。ただし進学上位校の生徒に学力低下は見られず、格差が大きくなっているとのことであった。現在検討が進められている高大接続テストについて、期待が大きい半面、対象者、実施時期等で意見が分かれるとのことであった。

濱名氏からは、入学前教育の類型を整理した後、リメディアル教育、初年次教育との関係を（株）ベネッセ・山本以和子氏が調査した結果に基づいて報告があった。さらに高大連携と高大接続の異同による混乱や、リスク学生への重点的な対応の必要性などが指摘された。

2. 自由研究発表、ラウンドテーブル

2日間を通じて多くの自由研究発表とラウンドテーブルが行われ、多くの会場に参加した。初年次教育学会の性格から、研究発表というよりは実践報告が多く、参考になる取り組みが多かった。

特に日本工業大学（埼玉）の“書き出し教育”の実践は、学修支援センタースタッフによるきめ細やかな指導により、工業系学生に対して学習意欲を向上させる成果が上がっているとのことであった。

300名以上が参加した学会大会であり、多くの模擬授業や学生の参加した発表もあった。FD活動に関する情報収集もでき、非常に有意義な2日間であった。

以上